

序

この報告書は、(公財) 中部産業・労働政策研究会が第6期(2016年9月～2017年8月)に行なった調査研究「一人ひとりが力を発揮するための職場風土と職場環境」の成果をまとめたものです。

少子高齢化が進み労働力不足が深刻になり、日本経済全体が縮小していくことが予想される中、これからも企業が成長・発展していくためには、従来以上に職場内の一人ひとりが持てる力を最大限発揮することが必要になってきます。そのためには、職場内の問題を「自分のこと」として自ら考え、当事者意識をもって行動することが大変重要であり、そのような職場風土や職場環境をめざすことが職場力の向上にもつながります。

そこで、本調査研究では、職場の実態や従業員の意識などについて調査を行い、職場風土・職場環境の現状を把握し、一人ひとりが力を発揮できる職場づくりに向けて取り組む課題を考察しました。

本報告書は、まず、アンケート調査の概要と結果の分析をまとめ、その後に提言と今後の課題をまとめました。本書の提言が各企業の労使の方々にとって、より良い職場風土や職場環境づくりにつながる一助になれば幸いです。調査にあたっては、中部地区の主要企業労使からなる「専門委員会」での活発な議論や貴重な助言をいただきました。報告書の作成にあたっては、研究主査を務めていただいた学習院大学の今野浩一郎教授(当時)、松本大学の上野隆幸教授にご尽力いただきました。また、アンケート調査には多数の方にご協力いただきました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

2018年3月

公益財団法人 中部産業・労働政策研究会
理事長 鶴岡 光行